

タスクを言語教授に活かす

ロッド エリス
オークランド大学
ニュージーランド

「タスク」の紹介

タスクとは？

1. タスクでは、意味(意図する事柄を伝えること)に主な焦点が置かれている
2. タスクには、何らかの「ギャップ」が存在する
3. タスクを行うのに必要な言語手段を参加者が選ぶ
4. タスクの成果が明確に設定されている

「タスク」と「練習」の比較

タスク

1. コミュニケーションに取り組むことに主な焦点がおかれる
2. ギャップがある
3. 文の創作をともなう
4. 成否の評価は、タスクの成果が達成されたかどうかで判断される

練習

1. 正確な言語使用に主な焦点がおかれる
2. ギャップは存在しない
3. 文の操作をともなう
4. 成否の評価は、対象言語が正確に用いられたかどうかで判断される

「買い物に行こう」練習

マリーの買い物リストを見てください。その後、アブダラー商店の商品リストを見ます。

マリーの買い物リスト

- | | |
|------------|------------------|
| 1. oranges | 4. powdered milk |
| 2. eggs | 5. biscuits |
| 3. flour | 6. jam |

アブダラーの買い物リスト

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. bread | 7. rice |
| 2. salt | 8. sugar |
| 3. apples | 9. curry powder |
| 4. tins of fish (魚の缶詰) | 10. biscuits |
| 5. coca cola | 11. powdered milk |
| 6. flour | 12. dried beans |

パートナーと一緒に作業を行います。一方がマリー、一方がアブダラーになって以下の会話をしてください。

Mary: Good morning. Do you have any flour?
Abdullah: Yes, I have some.

「何を買うかな」タスク

生徒 A:

あなたは、B商店で買い物をします。下の買い物リストの中で、B商店で買うことができるものにチェックをしましょう。

- | | |
|------------|------------------|
| 1. oranges | 4. powdered milk |
| 2. eggs | 5. biscuits |
| 3. flour | 6. jam |

生徒 B:

あなたはお店を経営しています。下記のリストは、商品リストです。お客さんAが必要なもので、店の在庫にないものを見つけてください。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. bread | 7. rice |
| 2. salt | 8. sugar |
| 3. apples | 9. curry powder |
| 4. tins of fish | 10. biscuits |
| 5. coca cola | 11. powdered milk |
| 6. flour | 12. dried beans |

2種類のタスク

1. 現実世界タスク

目的が「状況的真正性」である(学習者が実際の日常生活のなかで見聞き・経験するような会話状況を伴う)。

2. 教育タスク

目的が「相互交流的真正性」である(教室外で起こるコミュニケーションと同じ性質を持つ相互交流を作る)。

* 真正性: 真実味がどれだけあるか

「焦点化されていないタスク」対 「焦点化されたタスク」

1. 焦点化されていないタスクとは、学習者の「一般的な」言語使用を引き出そうとするタスクである。
2. 焦点化されたタスクとは、学習者が特定の言語形式に意図的な焦点をむけるように作られた活動で、かつタスクの基準を満たすものである。

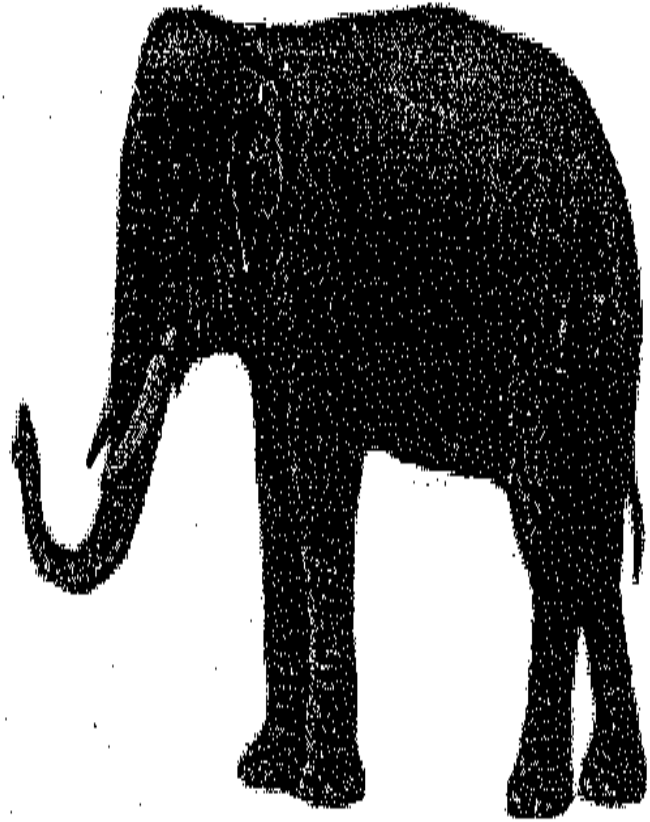
タスクの例

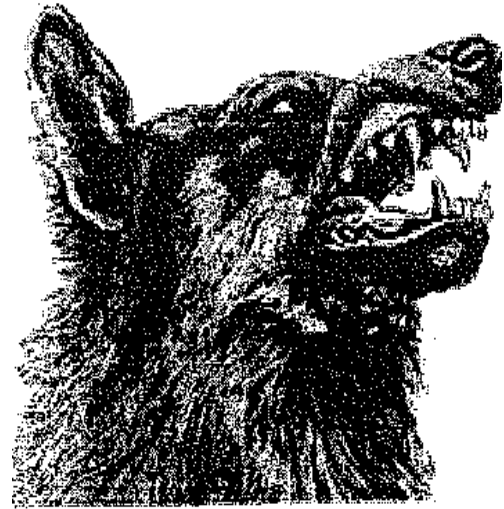
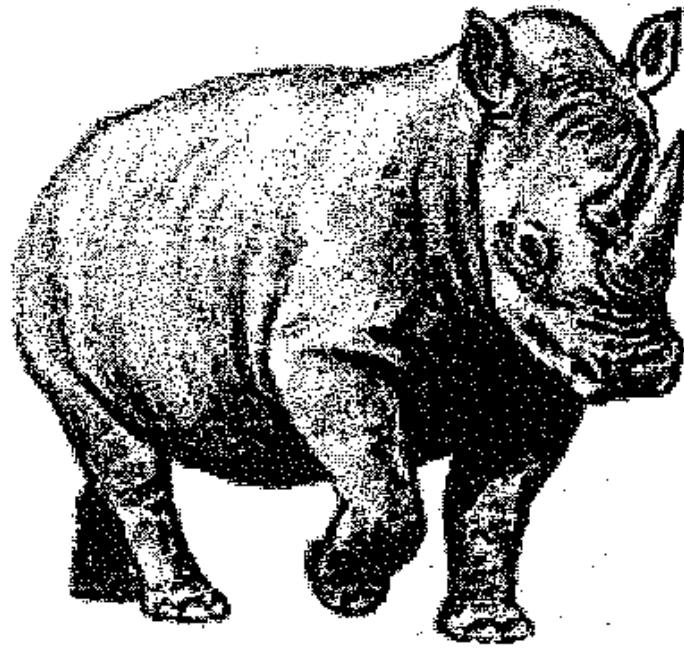
動物タスク

指示

動物の絵がいくつか示されます。それぞれの絵のセットのなかの1つの動物についての説明が聞こえてきますので、それをよく聞いて、どの動物か当ててください。







応用編

動物についての説明を聞きます。

説明された順番に動物の絵に番号を振ってください。

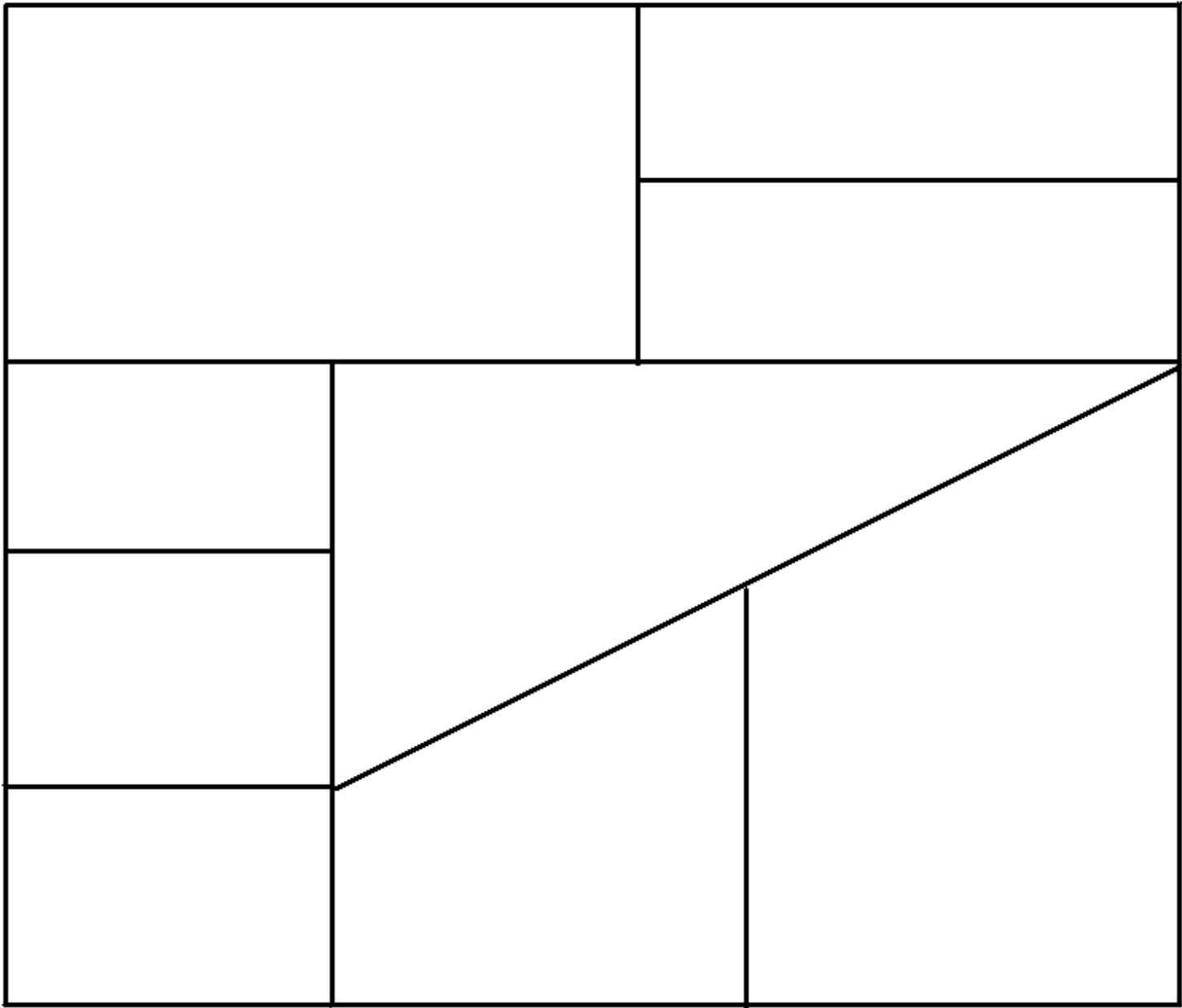
動物の名前を書いてください。



応用編

動物園の地図を見てください。動物が住んでいる檻が示されています。

動物がどこに住んでいるかの説明を聞いて、それぞれの囲いに動物の名前を書きましょう。



番号ゲームタスク

指示

今から番号ゲームを行います。ルールは以下の通りです。

1. まずプレイヤーAが「One」か「Two」と言います。
2. プレイヤーBは、続きの番号を1つまたは2つ言います。
3. 交代で相手が言った番号の続きを1つまたは2つ言っていきます。
4. 最初に「20」に到達したプレイヤーの勝ちです。

応用編

「番号ゲーム」の遊び方の手順を紙に書きます。

その手順を読んで、他の生徒が正しくゲームを行うことができるように、明確な説明をしてください。

「ポケットの中身」タスク

指示

グループで作業を行います。それぞれのグループに1セットの物が配られます(ポケットの中身です)。さて、誰のポケットでしょう。表を完成させてください。

確信は?

かもしれない たぶん 間違いない

Name

Sex

Age

Marital Status(未婚・既婚)

タスクの分析

タスクのタイプ

タスク	現実世界か 教育か	焦点化しているか していないか
何を買う?	現実世界	焦点化していない
動物タスク	教育	焦点化していない
番号ゲーム	現実世界 (?)	焦点化している
ポケットの中身	教育	焦点化している

タスクと4技能

技能	何を買うかな？	動物タスク	番号ゲーム	ポケットの中身
リスニング	Yes	リスニング	Yes (制限あり)	Yes
スピーキング	Yes	No	Yes (制限あり)	Yes
リーディング	Yes (制限あり)	No	Yes	Yes (制限あり)
ライティング	No	No	Yes	No

タスク中心の言語教授法

「タスク中心教授法」と「伝統的言語教授法」の比較

タスク中心教授法

1. 経験主義的
2. 言語の偶発的学習を提供する
3. 意味の伝達が第一義
4. 学習者はコミュニケーションを通して言語を学ぶ
5. 言語の「オンライン」処理(同時処理)に重点が置かれる
6. 教室内での対話は、「会話的」
7. コミュニケーションが効果的に行われたかどうか教授の主目的がおかれる

伝統的言語教授法

1. 分析的
2. 言語の意図的学習を提供する
3. 言語形式が第一義
4. 学習者は、まず言語を学び、その後コミュニケーション方法を学ぶ
5. 意識的な学習と暗記に重点が置かれる
6. 教室内での対話は「教育的」
7. 対象言語の正確さ教授の主目的がおかれる

なぜ TBLTなのか？

1. 第二言語はコミュニケーションを通して学ぶのがいちばんである。
2. タスク中心のアプローチは、生徒の内発的動機の発達に適切である。
3. タスク中心のアプローチによって、教師は生徒の第二言語でのコミュニケーション能力が伸びているかどうかを知ることができる。

タスク中心のレッスン

タスク中心レッスンの2つの側面

1. タスク中心レッスンの構成
 - プレタスク段階
 - メインタスク段階
 - ポストタスク段階
2. タスク中心レッスンへの参加形態
 - 個人作業アクティビティ
 - 教師ークラスアクティビティ
 - 小グループ作業

タスク中心レッスンの構成

プレタスク段階での教授ストラテジー

1. メインタスクに類似したタスクを学習者が行い、それを援助する
2. タスクをどのように行うかのモデルを学習者に示す
3. 学習者がタスクを行うのに役立つノンタスクに取り組みさせる
4. 学習者にタスクを行うための計画を立てる機会を与える

類似したタスクを行う

タスクそのものを行う前に類似したタスクを教師とともに行う (Prabhu, 1987参照)

- プレタスクは、それ自体がタスクである
- 教師対クラス交流を通して行われる。教師が生徒に質問をすることで、タスクの成果を導く。
- メインタスクは、グループもしくは個人作業で行われる

モデルを示す

- 理想的なタスクの実行方法を実例として示す
- タスクを行う際に使う理想的な文の特徴を分析する
- 学習者のストラテジー使用の練習を行う
(例:相手の発話を聞き取れなかった場合に、より明瞭な発話を要求する方法など)

ハンタスク準備活動

参加者の認知的または言語的負荷を軽減するために行われる:

- タスクが扱う話題に関するスキーマを活性化する(例:ブレインストーミング)
- 語彙の事前教授(例:Newton 2001の「意味の予測」、「協同作業での辞書検索」、「単語とその定義の照合」など)

プレタスク計画

タスクを行うために役立つ活動として、以下のようなプレタスク活動を行わせることができる。

オプション:

- ガイドなしの計画
- ガイドありの計画 (「内容への焦点化」対「言語形式への焦点化」)
- 時間配分 (Mehnert 1998)
- 参加形態

メインタスク段階での教授ストラテジー

2種類のオプション:

- タスク実行オプション(タスクの実施前に決定される項目に関するもの)
- タスク過程オプション – フォーカスオンフォーム(言語形式の焦点化)

タスク実行オプション

主なオプション:

- タスク実行中の精神的プレッシャーの有無 (Yuan and Ellis 2003)
- タスク実行中のインプット情報へのアクセスの有無 (「借用(与えられた言語をそのまま使用すること)」 – Prabhu)
- 驚き要素の導入 (参照: Foster and Skehan 1997)

フォーカスオンフォーム

フォーカスオンフォーム(言語形式の焦点化)とは、学習者がタスクを行っている中で、学習者の意識を特定の言語形式に誘導することをいう。

タスクを行う中で形式に意識を向ける方法

- 暗示的
- 明示的

暗示的フォーカスオンフォーム

2つの主な手順:

1. 明確化要求 (発話者Aがなにか発話者Bが理解できないことを言い、Bがより明瞭な発話を求めることでAに発話を修正する機会を与えること)
2. 言い直し (発話者Aの発話に対して発話者Bが、発話のすべてまたはその一部を修正して発すること)

暗示的フォーカスオンフォームの例

学習者: He pass his house.

教師: He passed his house? (= 言い直し)

学習者: Yeah, he passed his house.

教師: This animal has a trunk

学習者: What is 'trunk'? (= 明確化要求)

教師: It has a very long nose.

明示的フォーカスオンフォーム

1. 明示的修正 (例「xではなくて y」)
2. メタ言語的コメント (例「現在形ではなくて過去形」)
3. 質問 (例「なぜここでcanをつかったのかな」)
4. 助言(例「過去形を使う必要があったよね」).

明示的フォーカスオンフォームの例

学習者: Possibly he is a doctor.

教師: Use 'may'.

学習者: He may is a doctor.

教師: Not 'is' – 'be'.

学習者: He may be a doctor.

ポストタスク段階に役立つ教授ストラテジー

3つの主なオプション:

- タスクを繰り返して実行する
- 実行したタスクについての振り返りを行う
- 言語使用の正確さに焦点を当てる

メインタスクを繰り返す

タスクの繰り返しによって、学習者の言語産出が多様に向上することが研究で報告されている
(例: より複雑な言語使用が可能になる、主題提議がより明確になる、より流暢になる、など).

繰り返しは、最初に行ったときと同じ条件で行う
(小グループまたは個人作業)こともできるし、条件を変えて行うこともできる。

タスク遂行の振り返り

生徒が口頭または文書で以下について報告する:

- タスクの成果をまとめる
- タスクでの自身の成果を振り返り、評価する
- 言語使用のどの側面(流暢さ、複雑性、または正確さ)を優先させたかを述べる
- コミュニケーションを図る際に起きた問題について話し合う
- タスクを通して対象言語の何を学んだか報告する
- タスクをより効果的に行うための提案をする

上記については、学習者の第一言語でおこなっても対象言語でおこなってもよい。

正確さに焦点をあてる

可能なオプション:

- 学習者の誤答を概説する（「校正リスニング」－Lynch）
- 意識化タスク（言語形式の規則を発見する活動）の使用
- 伝統的な産出練習の実施
- 学習者自身の活動への気づきを与える（例：学習者がタスクを行っているときの会話の書き起こしをする）

手法に関する一般原則

1. 学習者に適切な難易度であることに注意する
2. タスクを行うにあたっての明確な目標を設定する.
3. タスクを行う際、学習者が適切な方向に意識を向けるように仕向ける
4. 生徒が活発な役割を果たすようにする
5. 言語使用の間違いを恐れないように生徒を励ます
6. 生徒の主な焦点が意味を伝えることにあるようにする
7. 言語形式に焦点があたる機会を作り出す
8. 生徒にタスクの成果と進行を評価させる

タスク中心レッスンの参加形態

参加形態のタイプ

タスク中心教授法について議論される際、メインタスクはペアまたは小グループで行われることを想定していることが多いが、それは誤った概念である。参加形態にはさまざまなタイプがある。

- A. 個人作業
- B. 社会的作業形態
 - 1. 教師ークラス
 - 2. 学生ークラス
 - 3. 小グループまたはペア

それぞれのタイプは長所短所両方を持ち合わせる。教師は、タスク中心レッスンを使う場合、参加形態のタイプを変化させる必要がある。

タスク中心レッスンの例

メインタスク

1枚のまとまった絵を4つに切り分ける。生徒は、4人ずつのグループでタスクに取り組む。それぞれの生徒が切り分けた絵を1枚ずつ持ち、他の学生に見せないようにする。交代で手元にある絵を口頭描写する。4人が終わった後、絵のストーリーを全員で話し合う。

プレタスク段階

オプション: ガイドなしのプレタスク計画

生徒が絵を口頭描写する前に、準備時間が6分間与えられる。準備時間中は辞書を使ってもよい。

メインタスク段階

2段階に分けて行われる:

1. 生徒は、ひとりずつ絵を口頭描写し、その後グループごとにどのようにストーリーを発表するか相談する。教師は、ただそれを観察する。
2. グループごとに交替でストーリーを発表する。生徒の言語的誤りについては、教師は、暗示的・明示的を交えた修正ストラテジーを使って修正を試みる。

ポストタスク段階

1. 生徒は、各自でストーリーを書く。
2. 教師は、それを回収し、生徒がよく犯す言語誤りのリストを作成する。
3. 教師は、そのリストの誤りをクラス全体に提示し、どこが間違いで、どう修正するべきかを説明する。

結論

おわりに

1. タスクは、生徒が第2言語知識を活性化するのに役立つ。
2. タスクは、生徒が語彙や文法を学ぶのにも役立つ。
3. タスクを教室で使うには、まず教師が従来のはとは違う役割をになうことが必要になる(教師は、「知識者」ではなく、「実践者」「援助者」になる必要がある)。
4. タスクは、教授カリキュラム全体に使うこともできるし、従来の教授法の活動に組み込んで行うこともできる(その場合、タスクは練習になる)